

～神の計画～あなたの名前Ⅴ

「招かれざる者の食卓」

マルコ 3:13～19

■ 唯一無二の存在

特別な1億円もの価値のある切手がオークションにかかり、これを購入した人がいました。ところが、この人は、皆の目の前でこの切手を燃やしてしまいました。実は、もう一枚同じ切手を持っていたので、燃やす事で、正真正銘、唯一無二の価値あるものとしたのです。結果、この切手の値段は何百億円にも跳ね上がりました。私達も神様によって唯一無二の存在として創られました。でも、私達は自分の価値を他者と比較し、お金で換算した複数の自分を作ってしまうています。私達の価値はお金にはかえられないので、自分の中にある、この複数の偽りの自分を燃やして無くしてしまう必要があるのです。創世記でアダムとイブは悪魔に誘惑され罪を犯して、エデンの園を追放されてしまいました。でも、神様がなさりたかったのは、悪霊を追い出す事でした。原罪を持った私達が誘惑された悪魔の声に打ち勝てる様に、イエスキリストを信じて従おうとする者に悪霊を追い出す権威を与えられました。本来の自分とは違う生き方を選ぼうとしてしまう誘惑の言葉を追放する事が出来る権威が与えられているのです。この権威を信じて使ってきているのでしょうか。

■ デドモと呼ばれるトマス

デドモ（ギリシャ語）も、トマス（ヘブル語）も、どちらも、別々だが一つである双子という意味です。トマスの名前の意味は出エジプト記26章の幕屋の作り方にある、底部では別々な二枚の板が、上部では一つの環で「一つに合わさるようになる」箇所からきています。ヘブル語のヘット（𐤇）＝8番目も同じ意味があります。トマスはイエス様が復活された時に他の弟子と共にいなかった為、「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言ったので、失敗者、不信のトマスと言われてしまいました。しかし、病んでいるラザロのいるユダヤにイエス様が戻ろうとした時、イエス様を石打ちにしようとして出て来たユダヤに再び行くのは辞めましょうと他の弟子が言う中で、トマス1人だけ、「私たちも行って、主と一緒に死のうではないか」と言うような情熱のある、イエス様の事が大好きな弟子でした。実は、聖書には正典66巻の他に歴史的背景の描かれた外典があり、その中にトマス行伝があります。トマスはイエス様にインドに宣教に行くようにいわれますが、行きたくない拒否します。でもインドに大工の弟子として行く事になりました。インドで、王宮建設の役割を王から命じられ、大金を任せられましたが、トマスはそのお金を恵まれない人に施して、王の命令通り王宮を建設しなかったため、牢屋に入れられてしまいます。それは、この地上に王宮を建てるより、天に王宮を建てる事の方がすぐれていると思ったからでした。その事を、王は、病気で天に行き返った自分の弟から聞く事になります。結果、王は、トマスを通して神を信じて救われたのです。トマスはいつも、最初は信じられず、従う事が出来ない弱さがありますが、最後は正しい一つの事を選ぶ事の出来る弟子でした。トマスの人生から人の悪意が神の摂理になる事がわかります。

■ 二つの相反するものを一つにする

ラザロの復活の事で多くの人々がイエスに従っていく事に腹をたてたパリサイ人がイエスを恐れて会議をしていると、大祭司が「民族の為に1人の人が死ぬという事を頭に入れておきなさい。」と言います。その後イエスをどうやって殺そうかとパリサイ人達は話し合いを初めて行きます。大祭司は、神の計画の中でこの発言をしたのであり、神の摂理によるとマタイは記録しています。トマスが嫌々でも信じて従う事が、神の摂理のきっかけとなったのです。トマスは、パリサイ人という真っ向から反対する反発者を神の計画に合わせていく事を成し遂げていったのです。トマスのアトリービュートは剣です。彼は自分のしたい事をしたわけではありません。最後はインドの兵士3人に同時に槍で刺されて殉教しましたが、やはり、彼の決断によって、インドの王が洗礼を受けるという神の摂

理のきっかけとなりました。トマスは、もともと別々のものであった違っているものを、もう一度一つにする人物となったのです。

■ 尾身茂 医師（政府・新型コロナウイルス感染症対策分科会 会長）

問題や困難があるのは当たり前と言う彼は、医師として、世界の未曾有の出来事、コロナウイルスの対応に関して、とても大きな力を発揮しています。多くの情報から判断した事を政府に提言していく立場にいた為、誹謗中傷されることが多くありました。政府と見解が違う事で、政治的抹殺を受ける事もありました。しかし彼は「批判の中にも一理の真理がある。」と語って多くの人がしている様な政府批判、反論をしませんでした。どうしてその様な事が出来たのでしょうか。彼はノンクリスチャンでしたが、座右の銘は、聖書の御言葉『天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある（伝道者の書3:1）』だったのです。彼は時間が神であることを良く理解していました。時が解決するその時まで、神を信頼し、時を待つ必要がある事を理解していたのです。心が騒ぐ時は、ラインホルド・ニーバーの「神よ、変える事の出来ないものを受け入れる冷静さを、変える事の出来るものを変える勇気を、そして、両者の違いを見分ける知恵を私達にお与え下さい。」という祈りを通して、1人静穏の時を持ち、自分と格闘したそうです。彼は「個性は自分自身と格闘し自分自身を見つけていく事である。」とある対談の中で語っていました。尾身氏はクリスチャンではありませんが、聖書の言葉に信頼して実行していたのです。また次のようにも語っています。「自分の中に、偽りで自分を榮えさせようとする虚栄心があると、自分と向き合えない。」と。

■ 神に聞き、自分と闘う

クリスチャンではない尾身氏でさえも御言葉を信じて揺るぎない信念で自分の信念を貫こうとしています。ならば、神様を知っている私達は、御言葉から更に神様の摂理を受け取ることができます。信じることができます。私達も虚栄心を捨てて、神に聞き、自分と闘い、本来神様に創られた唯一無二の自分を見いだして行きましょう。自分に打ち勝つ力を与えて下さいと祈って行きましょう。

■ 最後に

私たちはクリスチャンです。問題が山積みであることは皆同じ、その機会をどう用いるかは自分の問題なのです。その問題の中で自分の問題を見るのか？それとも被害者になり人のせいにするのか？私達は選ぶことができます。また「2つのものを一つにする」とは、世の中の問題や人の為だけではありません。自分を赦さない人がいるなら、愛せない自分がいるなら、まず自分が愛されていることを受け取りましょう。イエスキリストの命がけの十字架は、ただあなたが赦され愛されていることを受け取るためからです。ですから、まず自分を愛し、自分を愛する様に隣人を愛して行きましょう。トマスは指を差し入れるまで信じないと言いましたが、そこにイエス様は現れて、トマスは「私の主。私の神」とイエス様に告白しました。そして、「見ないで信じる者は幸いです」と言われ赦されました。そしてトマスは、民族と民族を繋ぐ者、失敗と神様を繋ぐ者となりました。「人の悪意」と「神の摂理」を一つにしたのです。私達にもこの役割があります。何も出来ない。自分には価値がないと思ってきた偽りの切手を燃やし、逃げずに信じて向き合う勇気を神様から頂きましょう。神様はあなたに特別に与えた特別な名前を今日も呼ばれています。

（要約者：日名 陽子）

（2022年10月16日）